

## 3つの目で見た郷土香川《第19回》

### ～讃岐国分寺跡紀行～



今回は、高松市国分寺町にある讃岐国分寺跡を訪れました。現在の国分寺は、正式には白牛山（はくぎゅうさん・千手院・国分寺）であり、古儀真言宗御室（おむろ）派の別格本山です。御本尊は、平安時代後期の作とされる5尺もある巨大な十一面千手（せんじゅ）観世音菩薩です。仁王門から本堂までの道のりは直線で、鐘楼、塔跡、金堂跡が途中にあります。

鐘楼（しょうろう／左最上写真参照）の銅鐘は、平安時代前期建立とされており、香川県内でも最古の部類にあたるそうです。また鐘の音色がよいので、1609（慶長14）年に高松城主の生駒一正が高松城下に持ち



帰ったところ、城下にも異変が起こったり疫病が流行したり、また一正公も病気となって、夢枕に毎夜「もとの国分へいぬ（帰る）～」とでる状態になってしまい、そしてこの鐘は国分寺に返されたという伝説があります。金堂跡（左上2番目写真参照）は、現在は32個の安山岩の自然石が金堂の柱にて基礎石が残存、本来石の配置は東西8個が南北に5列、復元すると正面28尺、側面14尺の建物となるそうです。塔跡には礎石が15個残存、本来は4石が4列、10メートル四方の七重塔であ

ったとされるそうです。現在の本堂（右下から2番目写真参照）は、元々存在していた講堂の礎石を幾分規模を縮小して建立された可能性があると考えられ、時期は鎌倉時代中期以後と考えられ、桁行五間・梁行五間の本瓦葺の入母屋造りです。本堂内の御本尊を安置する場所である須弥壇（しゃみだん）の巨大な厨子の中に十一面千手観世音菩薩が秘仏として安置されています。訪問時にも四国霊場80番札所なので、お遍路さんの般若心経のお経の音がしばし聞こえてまいります。合掌・・・。

次は本来の国分寺であり、讃岐国分寺跡の訪問です。先の四国霊場としての国分寺の北と東西を囲むようにしており、東西220尺南北240尺の広大な寺域とされています。この寺域を築地塀（ついでい／右最下段写真参照）で囲まれていたようで、現地ではその一部が復元されていました。また伽藍（がらん）の1/10の模型が屋外展示されており（表紙写真参照）、石材による再現は視覚インパクトがあります。南大門、中門、金堂、講堂が一直線であり、寺域のやや西側によっていて、金堂と中門が回廊で結ばれている大官大寺式の伽藍配置です。





僧坊跡は、現存する礎石から東西 84 尺南北 12 尺の規模の建物で、礎石の間には柱間装置が規則的に残っているため、僧坊内部の復元も可能となりました。現地では、東半分は覆屋（おおいや／左最上段写真参照）を建築して、その内部に当時の僧侶の生活をイメージできるように、内部復元（左上 2 番目写真参照）がなされています。ちょっと僧侶のマネキンが不気味なんですけど・・・。1 区画に通路はさみ 4 つの土間個室で定員 4 名で、これが 6 区画、そしてさら 1 区画は共同スペースとされていました。国分寺は僧侶が 20 名と定められていたので、全員入居できるというわけですね。なおこの僧坊は、発掘物などから 10 世紀末までに廃絶と推定されてます。

ここで讃岐国分寺の成り立ちを少し見ていきましょう。一般には 741（天平 13）年に聖武天皇が国分寺建立の詔勅（しょうちよく）を契機とされ、国家安寧を願う護国思想に基づく寺院です。正式名称は金光明四天王護国之寺

（こんこうみょうしてんのうごこくのてら）、七重塔の建立、金光教最勝王教と妙法連華教それぞれ 10 部の写経、僧 20 名、寺田などを規定されたわけですね。律令制をもとに財政面や政治的性格を支えていたので、10 世紀末になると律令制は実態のないものなり、国家の庇護を失ってしまい困窮し、当初の政治的性格もなくなり、鎌倉時代になると真言律宗寺院として再興され、現在の国分寺へとつながっていきます。

最後に史跡地東側の讃岐国分寺跡資料館を紹介しましょう。1993（平成 5）年に開館され、ここでは金堂の 1 / 20 の模型で再現されており、ナレーション付きの解説、金堂の門が動きます。またこれまでの研究調査などで出土した発掘物、天平時代の衣装の再現の展示、映像室ではアニメビデオの放映などがなされています。今回は記事の順番に訪問しましたが、私個人的には、同館→讃岐国分寺跡→国分寺の順の方が、理解を深めていく点、歴史順の面においていいと思いますが、いかがでしょうか。

※右下 2 番目写真 文字瓦

東側築地跡から「国分寺金光明」と記された丸瓦の出土品

※右一番下の写真 鬼瓦 上 復元レプリカ 下 出土品

・上記 2 枚の写真は讃岐国分寺跡資料館のご厚意により提供されました。

ここに紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。



~~~~~

《資料館情報》高松市国分寺町国分 2177 番地 1  
 開館時間 9 時～ 16 時半、休館日 月曜日  
 （休日と重なる場合はその翌日）12/29～1/3、  
 入場料 大学生以上 100 円

《参考資料》

- ・さぬき国分寺町誌 (2004 (平成 16) 年／国分寺町誌編纂委員会)
- ・特別史跡讃岐国分寺跡保存整備事業報告書 (1996 (平成 6) 年／国分寺町教育委員会編集・発行)
- ・特別史跡讃岐国分寺跡 史跡ガイドブック (2011 (平成 23) 年／讃岐国分寺跡資料館友の会編集・発行)